



# 電子書籍の保存

中西印刷株式会社 中西秀彦

2009.3.9

2008年度国立国会図書館 調査研究報告会「電子書籍の流通・利用・保存」

# 書籍の保存の重要性

- 歴史は文書によって語られる
  - 過去を未来に伝え、文化を伝承していく文書の存在
  - 図書館の「保存」への貢献
- 紙の文書以外の情報増大
  - 20世紀以後 映像・音声などの拡大
  - 21世紀 電子資料の爆発的増加
  - 電子資料を保存しなければ21世紀の歴史は語れない

# 調査から

- 出版社アンケート
  - 外部保存が69.4%
  - ただし、永続的保存の意味ではなく単なるバックアップの意味と思われる疑念
- 出版社インタビュー
  - 保存を長期保存とはとらえていない
  - ケータイ小説では保存そのものを行わない
- 長期保存の重要性については認識されていない現状



# 国会図書館員アンケート

- とりあえず保存をとという圧倒的な多数意見
  - ボーンデジタル資料の保存ができないことへの危機感
  - ソフト・ハード面での困難さの認識
  - 規格化などにも関わるべきという意見
- 公開に対する慎重姿勢
  - 出版社に対する配慮
  - 公開を前面にだしては収集が困難

# 電子資料保存の危うさ

- 物理的危機

- CD-ROMなどは20-30年しかもたない
- 規格の変化が早い
  - フロッピーはすでに読めない媒体
  - CD-ROM → DVD-ROM → BD-ROM

- ソフトウェア危機

- OSの変化に古いソフトは対応できない
- デバイスドライバなどの周辺ソフトの供給不可能

# ネットワーク系電子資料の消滅の危機

- 時代はパッケージ系からネットワーク系へ
  - おそらくパッケージ系電子出版は歴史的に過渡期の技術にすぎない
- サーバーの消滅は掲載全資料の消滅
  - 災害による消滅
  - 倒産による消滅
  - 事業廃止だけでも消滅する

# 電子ジャーナルの先駆的試み

- 学術雑誌はネットワークによる電子化がもっとも早く進んだ
  - 検索性・速報性がもっとも重要な領域
  - If it is not on the net, it does not exist.
- Perpetual access
  - 出版社との契約が切れるとすべて読めなくなる。紙の雑誌との対照
  - 契約として制限はあるが永続提供を保証するようになってきている
  - しかし、倒産・事業廃止には無力



# 公的図書館の電子保存

- オランダ王立図書館 e-depot
  - 出版社が無償でコンテンツ提供
  - 図書館が永続保管
  - 出版社が活動している間は提供しない
  - 危急の際、倒産の際などはただちに供給
- 米国 LOCKSS Alliance
  - 複数箇所保管、常時テキストの照合
  - 出版社サーバーに問題があった場合コンテンツ提供



# 電子書籍保存の現状

- 学術電子ジャーナルのような保存に対する危機感がない
  - 現状では、紙の本が優位。対応する紙があるので、現状の紙保存でも問題ない
  - ただし急速にボーンデジタル、完全電子化がすすんでいる
    - ケータイ小説など
- ネットワーク系電子書籍については保存の試みがなされていない



# 電子書籍保存は急務

- 電子書籍保存に関しては我々調査側にすら認識が薄い
- 出版社にはまだその意味も理解されていない
- この間にもケータイ小説はどんどん消滅している
- 電子書籍保存は図書館がきわめて重要な役割をはたす



# 電子式年遷宮の提唱

- 保存しても電子データは20年で読めなくなる
  - ハード・ソフトの永続性のなさ
- 1000年後の人類(人類でない可能性もある)に21世紀の電子文化を伝えるために今何をなすべきか
- 滅びいく電子データを一定期間ごとに最適な形式に変換して移し替える
  - 式年遷宮のアナロジー



# 1000年の未来へ



薬師寺西塔(手前 再建) 東塔(奥 国宝)